

令和 2 年度 小林市立三松小学校 学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
学校経営ビジョン 学校経営ビジョンキーワード：「将来発見！ 夢づくり」 キャリア教育を柱に、「助け合う」「教え合う」「協力し合う」児童同士の協同力を高めながら、 将来の夢に向かって学ぼうとする自立した児童を育てる。					
知育	重点目標：基礎・基本の確実な定着及び思考力・判断力・表現力等の向上 ■手段 1 三松メソッドを基本とした「課題解決型授業」の推進 2 協同力を高める「チーム学習」の実践 3 諸学力調査等の分析による指導方法の工夫・改善及び基礎学力の定着を図る補充指導の授実 4 8つの学習習慣の継続的指導 5 週3回のぐんぐんタイムの確実な実施と充実	○ 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた教職員追加配置により、第6学年を4名での指導を行い、よりきめ細かな支援を行うことができ、感染症リスクを下げる事ができた。 ○ 校内の職員研修において、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を研究し、指導過程において「助け合う」「教え合う」「練り合う」場を意図的に設定し協同できる力を育てることができた。 ○ 指導教諭による指導法や学級経営法、学力向上に関する助言をする場を設定したことで、OJTの推進を図った。 ○ 学年で習ったことは学年末までに定着を図る「学びの確認」を、3月2日・3日に全校一斉に実施した。具体的には、1～3年はワークテストやドリル等の活用する力を育成する問題を解き、4～6年生は、過去のみや学・全国学習状況調査を利用し、基礎的内容の定着を図ること共に活用する力を高める取組を行った。 ○ 1単位時間において、児童の評価とその後の指導を継続的に行うようにし、授業の中で児童が考えたり、教え合ったりする時間を十分確保し、指導過程の充実を図ることができた。	3.1	3.5	○ 校内の職員研修において、「助け合う」「教え合う」「練り合う」場を設定し、協同できる力を育てることは素晴らしい。 ○ 授業力を向上させるためには、「互いに授業を見ることと見せること」が大切である。来校した際、先生方が参観されている姿を多く見る機会があり、今後も継続して取り組んでもらいたい。 ○ コミュニケーション能力を高めるために、様々な場面でたくさんの「～し合う活動」を今後も多く取り入れ、他人と関わることが苦手な児童が少しずつでも変わっていくよう支援をお願いしたい。 ○ 「学びの確認」はとてもよい取組だと思う。今できていることとできていないことを、先生と児童が正しく認識しておくことが、その後の対策につながる。ただし、理解させようとして、苦手なことばかりをさせると、児童はやる気を失ってしまうので、できることを伸ばし、マイナス面を目立たせなくすることも大切だと思う。 ○ 保護者の教え方が正しいのかそうではないのか、分からない場面があり、宿題を保護者に任せることによる未理解をなくしてほしい。
徳育	重点目標：自他の存在、きまり、礼儀の尊重及び豊かな心の育成 ■手段 1 自治的集団を育てる学級づくりの推進 2 いじめや不登校の早期発見と早期対応を図るアンケート及び教育相談の充実 3 ハイパーQUの活用とボランティア活動、体験活動等の推進 4 8つの生活習慣の継続的指導	○ 全クラスで、毎週水曜日に「クラス会議」を実施し、発達段階に応じた話し合いをすることができた。当初は議題選定や進め方に時間がかかるクラスが多かったが、徐々に児童の主体的な話し合いが見られるようになり、子供の変容がみられるようになった。 ○ 今年度から hyper-QU を実施し、より児童理解を深め、豊かな人間関係の構築を図るようにした。また、毎月1回悩みアンケートからの教育相談を確実に実施したことで、早期発見・早期対応に努めた。その結果不登校児童「0」いじめ認知解消率「72%」であり、経過観察中の事例もある。 ○ 8つの生活習慣では、④教室を離れる際に椅子を入れる、⑦雑巾をきれいにかける、⑧必要なものは持ってこない、の項目は90%を超える児童ができていて答えているが、③服をきちんとたたむ、⑥無言掃除に取り組む、ことが70%台なので、今後も全校で統一した指導を展開していく。	3.2	3.6	○ 野尻の地域おこし協力隊の方が、三松小学校の「クラス会議」を紹介している。児童主体で自分の意見を述べたり、考えを伝えたりする活動が継続して行われておりとてもよい。今後も互いを認め合う雰囲気づくりを大切にしていってほしい。 ○ ボランティア活動を毎朝見ているが、自分たちの学校環境を自分たちで進んで美化しようとする気持ちが培われている。また不登校児童「0」は大変すばらしく、登校渋りの児童にも適切な対応をされている。 ○ 「人の話を聞く」「自分の意見を言う」ことを苦手に思う児童が多いと感じていたので、今後も意見を話す機会を増やしていただきたい。 ○ hyper-QU を実施し、調査結果を児童にフィードバックしており、対応策等全職員で取り組んでいることが分かる。今後も継続してほしい。 ○ コロナ感染症の影響で、あいさつがこの1年、元気がなかったのが気になる。
体育	重点目標：基礎体力・運動能力の向上及び望ましい健康生活習慣の定着 ■手段 1 基礎体力及び運動能力の向上 2 外遊びと運動の日常化 3 病気の予防と治療率の向上	○ 体力向上プランに基づき、体育の時間における指導の工夫・改善を図るとともに、朝の時間を活用し、ストレッチ運動を各学級で継続して実施している。朝の時間に、継続して柔軟体操ができたが、今後は、体育の時間における更なる運動量の確保や、外遊びの推進ができるようにしたい。 ○ 養護教諭が中心となり保健室前の治療率の掲示や保護者への啓発により、3月5日現在80.6%の治療率である。100%を目指し今後も啓発を継続していく。 ○ 早寝・早起き・朝ごはんの摂取・朝の歯磨きのすべてができていく児童が、1月現在で60名を超え、今後も継続した指導を行っていく。	2.9	3.5	○ 歯の治療率が80%を超えていることに驚いた。この背景には、養護教諭をはじめとする、先生方の普段のご指導と、家庭への啓発があるからだと思う。 ○ 早寝・早起き・朝ごはん・朝の歯磨きを1セットとし、60名を超えている児童ができていくことも素晴らしい。今後も児童に具体的指導をお願いしたい。 ○ 学校から家庭への一方的なお願ひだけではなく、諸調査の結果分析や保護者や家庭からの声の紹介など、保護者が協力してよかったな、と思える取組に期待している。 ○ 「ストレッチ運動」は、成長してからのけが防止にもなるため必要である。体力向上プランに基づき、体育科の指導・工夫を図っていただきたい。
食育	重点目標：食育の推進及び望ましい食習慣の定着 ■手段 1 望ましい食習慣の育成 2 弁当の日の取組と食への感謝 3 キャリア教育との関連	○ 食物アレルギー対応に関する職員研修を実施し、児童の実態に応じた対応を全職員で協議し、 実地訓練も実施した。 ○ 弁当の日は現在100%の実施率である。 ○ 給食時間に、生産者の方についての話を入れるなど、食に関する関心を高めた。 ○ 栄養教諭等による給食時間の食育指導は100%実施できている。また、栄養教諭によるTT授業を9月に1回実施している。	2.6	3.5	○ 栄養教諭による食育指導、弁当の日の取組が100%実施されている。食物アレルギー対応については、個に応じた指導で神経を使われていることと思う。命に関わることなので、今後も研修・実地訓練をして理解を深めてほしい。 ○ 学校だけではできないこと、指導の様子等、家庭への発信も続けてほしい。 ○ 外部講師や生産者の方の話を聞く機会もあり、食育に対し積極的に取り組んでいる様子が伺える。
次年度の方向性についての校長所見	「協同（継承）」と「自立（発展）」の2つのキーワードをもとに、学校経営ビジョン「将来の夢実現のために、助け合う、教え合う、協力し合う児童同士の協同力を高め、自立しようとする児童の主体性を育成する。」を推進する。 ① 協同（継承） 協同力とは、心と力を合わせて助け合って仕事をする事ができる能力のこと ・ 「助け合い、教え合い、練り合う」のチーム学習を進める。 ・ クラス会議等を通して、学級の問題を自分達で解決できるようにし、児童が自他の成長のために協力できる自治的集団づくりを目指す。 ② 自立（発展） 自立とは、自分のことは自分ででき、今自分は何をすべきかを考えて行動すること ・ 最終的には自分で考え、行動できるようにする。 ・ 最終的には、自分の考えをアウトプットできるようにする。 ・ 「自立」を意識し、委員会活動や行事等で、児童が主体的に動けるようにする。				